鹿児島大学リポジトリ
Kagoshima University
Repository

鹿児島県立農業大学校畜産工学部を見学して

著者	"内村 利美, 片平 清美, 池田 博文"
雑誌名	鹿児島大学農学部農場技術調査報告書
巻	5
ページ	44-44
URL	http://hdl.handle.net/10232/9893

鹿児島県立農業大学校畜産工学部を見学して

内村利美・片平清美・池田博文

研修地及び日程

研修地　鹿児島県立農業大学校畜産工学部
　　鹿児島県牧園町高千穂 3598 - 4
日　程　1996年 3 月22日

研修概要

姶良郡牧園町高千穂に位置する鹿児島県立農業大学校畜産工学部を見学，研修した。はじめに，畜産工学部の沿革についての説明をうけた。本学は1978年（昭和53）4 月鹿児島県立農業大学校畜産第二学部として発足した。1982年（昭和57年）4 月に人事院規則の条項に基き短期大学卒業と同格扱いとされる事になった。

1990年（平成 2 ）4 月に学部名称を畜産工学部に変更し現在に至っている。学生の募集定員20名に対し毎年17～18名の入学で，定員割れの状況にあり，女子学生は毎年 2 ～ 3 名程度の応募である。畜産工学部の指導職員は教授 2 名，講師 2 名及び技術補佐員 3 名，計 7 名で学習並びに実習指導に当たっている。理論学習では鹿児島大学等の援助も受けている。

農業への意欲をもたせる為，学生自身の意見を充分反映させる方向で指導がおこなわれている。大家畜コースと養豚コースにわかれており，大家畜コースでは乳牛28頭および肉牛18頭が飼育され，飼料畑の総面積 8.5 ha をフルに活用し，飼料作物を栽培し，低コストで多収穫生産を目指して努力がなされている。大家畜コースの学生は県内または北海道の先進農家で45日間の研修が計画されている。養豚コースでは種雌豚16頭並びに種雄豚 3 頭を飼育している。養豚コースの学生は県内外の先進地農家または企業養豚場で45日間の研修が計画されている。校外研修や特別講話等も組入られており，ゆとりある教育がなされている。校外研修の一つとして入来牧場での直腸検査実習も組まれており，その実習風景がパンフレットに写真入りで紹介されている。

学習並びに実習指導のねらいは酪農，肉牛生産および養豚を志す若い人達に農業に関する高度な知識と技術，特に受精卵移植等の技術を習得させ，21世紀の農業・農村を担う農業経営者および農村指導者を養成するとの事である。また，特色ある畜産工学部を目指しバイオ教育の施設及び機器などが完備されている。経営研究プロジェクトを通じて実践的情報処理教育を行い，あらゆる情報や技術革新に対応できる力を養うための教育を展開している。2 年間の在学中に農業機械士，家畜商及び人工受精師の資格・免許が取得でき，卒業後はそれぞれの関連職場に就職している。

感　想

施設設備等教育環境が非常によく整っている。2001年（平成13）牧ノ原の講習所を含む畜産工学部が日置郡金峰町へ移転統合される計画である。現在の家畜飼養管理方法や施設設備では，餌の給与や糞尿処理法等が旧来の方法と変わっていない。このため作業に時間がかかりすぎるようである。21世紀の農業は有機農業あるいは自然循環型農業へと変わろうとしている。従って，省力化のための施設設備やそれに伴う家畜飼養管理法をどのように整えるか，新しい方向を生み出す時期にあるように思われる。